2　白鷹町史関係略年表

西暦	年号	記事	関係事項
七三〇	天平2	白鷹虚空蔵尊が信仰され、大蔵寺が創建されたという（伝）。	
七四六	同18	十王称名寺開基（伝）。	
八〇七	大同2	鮎貝向福寺開基（伝）。この頃、杉沢観音堂建立（伝）。	八〇六、空海帰朝、真言宗を伝える。
八三八	承和5	杉沢観音堂鰐口記銘（伝）。	
一〇五九	康平2	鮎貝八幡神社創祀（伝）。この頃、鮎貝金蔵院開基（伝）。	
一〇八七～九四	寛治年間	この頃、石灘監物荒砥地方を治め、八乙女八幡宮を建立したという（伝）。	一〇八七、後三年の役終る。
一〇九六	永長元	この頃、荒川次郎清泰、八乙女丘に城を築くという。	
一一一三	永久	この頃、鮎貝氏の祖藤原安親、平泉藤原氏を頼って下向し、横越に居館を築くという。	
一一八九～二六	文治5～大治	大江時広、長井の庄の地頭となる。	源頼朝、奥州平定。
一二二三	貞応2	西田尻大日堂建立（長福寺々伝）。	
一二六三	弘長3	十王、正光院開基。	
一二七八～八七	弘安年間	この頃菊地兵庫守、十王塩田山に拠るという。	
一三四四	興国5（康永3）	十王、関寺観音堂中興（伊達行朝）。	一三三六、南北朝分裂。
一三四五	興国6（貞和元）	十王、仏坂観音堂再興（伊達行朝）。	
一三五七	延文2	荒砥正念寺開基。	

一三八〇	天授6 康暦2	伊達宗遠、置賜地方を後略、長井氏滅ぶ。	
一三八四	元中元 至徳元	この頃、馬場将監、荒砥地方を治める。	
一三九四	応永元	鮎貝氏、伊達氏に服す。	
一三九六	同 3	鮎貝城完成。	
一四〇七	同 14	鮎貝相応院開基。この頃、僧道智、湯殿山参詣の道開く。	
一四三〇	永享 2	畔藤、永泉寺開基。	
一四三六	同 8	宵日、遍照寺中興す。	
一四四四	嘉吉 3	鮎貝宗盛、成田村飯沢専太夫の越後長尾陣の功を賞す。	
一四四九	宝徳元	称名寺、法相・真言両宗兼学となる。	
一四五三	享徳 3	高玉瑞竜院開基。	
一四六〇	寛正元	鮎貝瑞岩寺開基。鮎貝成宗卒。	一四六七、応仁の乱起こる。
一四七〇	文明 2	桑島氏、荒砥城拡げる。	
一四八五	同 17	瑞竜院勅願所となる。	
一五〇一	文亀元	この頃、西田尻臼ヵ沢金山採鉱開始。	
一五〇四	永正元	鮎貝氏、高玉城を築くという。	
一五〇五	同 2	鮎貝常安寺開基。	
一五〇九	同 6	伊達尚宗、上杉定実を授け、越後への出陣を図り、鮎貝氏・大立目氏等の諸将に武備の廻状を出す。	
一五一二	同 9	鮎貝氏の家臣、仲川重長の子三郎・四郎兄弟、北条氏・三浦氏の戦いに死す。	
一五二〇	同 17	伊達稙宗、竜島院に横越の地外を安堵す。	
一五二三	大永 3	伊達稙宗、松岡土佐守に黒藤郷細越在家外を安堵す。稙宗、陸奥国守護職とな	

一五二八	大永8	る。鮎貝宗朝（定宗）、成田村飯沢五郎兵衛に安堵状を与える。	
一五四二	天文11	伊達晴宗、父稙宗と争う（天文の乱）。鮎貝盛宗、湯目一族に反晴宗の書を送る。	
一五五三	同22	伊達晴宗、諸将に安堵状を下す（晴宗公　地下賜録）、大立目氏（荒砥）、鮎貝氏等これを受く。	一五四三、ポルトガル船種子島に漂着、鉄砲伝来す。
一五五九	永禄2	鮎貝盛宗、成田村飯沢五郎兵衛に安堵状を与える。	
一五六一	同4	桑島三郎左衛門、畔藤熊野堂を再興す。	
一五六六	同9	鮎貝盛宗、白兎郷横沢三郎左衛門に安堵状を下す。	
一五六八	同11	鮎貝盛宗、成田村飯沢五郎兵衛に安堵状を下す。	
一五七〇	元亀元	この頃、荒砥城将大立目氏、添川に抱え城あり。	
一五七一	元亀2	高玉瑞竜院前住一翁、最上義守に下炬語（あこご）を授く。	
一五七二	元亀3	大立目秀行、添川喜雲寺に「寺一札」を与う。	
一五七四	天正2	東田尻金沢寺開基。鮎貝氏、芋川（五百川）に争う。瑞竜院と高玉氏問答す。伊達輝宗、最上義光と争う。	長篠の戦。
一五七五	同3	鮎貝常光寺開基。	
一五七九	同7	常光寺層塔記銘。	
一五八五	同13	深山観音堂寺領寄進状。	
一五八六	同14	荒砥城主大立目下野守、伊達政宗より関・李山・綱木・篠野方面の定番を命ぜらる。	
一五八七	同15	鮎貝宗信、伊達政宗に敗れる。荒砥正念寺本尊記銘。	
一五八八	同16	西高玉橋本家鰐口記銘。	
一五九〇	同18	国分盛重、鮎貝城に入る。	朝鮮征討発令。
一五九一	同19	9月、伊達政宗、岩出山（宮城県）に移る。11月、これより蒲生領となる。	

一五九三	文禄	2	この頃、難村に復興資金を借す（常伏子の基）。	
一五九四	同	3	文禄検地実施、蒲生氏領高目録成る。	
一五九五	同	4	2月、蒲生氏郷病没。	
一五九八	慶長	3	蒲生秀行宇都宮へ移封、上杉領となる。荒砥城代泉沢河内守久秀、鮎貝城代中条与次三盛。	秀吉没、六十三才。
一六〇〇	同	5	9月、最上陣・福島陣起きる。郷土兵の参陣あり。上杉氏減封。	関ヶ原の合戦。
一六〇三	同	8	この頃、諏訪堰開鑿という（堰由来記）。	家康、征夷大将軍となる。
一六〇六	同	11	横越村に新町を制す、検断鈴木和泉。	
一六一一	同	16	この頃、諏訪堰開鑿を伝う（御当国覚書）。	
一六一四	同	19	大坂冬の陣、郷土兵の参陣を伝う。	
一六一五	元和	元	「邑鑑」編さんは、この頃と推定。家数改め。	
一六一八	同	4	馬場村役人、山地を滝野村に売る。	
一六二三	同	9	再度、家数を改め実施。	家光、将軍となる。
一六二五	寛永	2	鮎貝・山口、山地を争う。	
一六二八	同	5	領内切支丹、大弾圧を受く。佐野原村切支丹ら転ぶ。広野村開村。	
一六三一	同	8	鮎貝八幡社々領二五石（分限帳）。	
一六三六	同	13	佐野原切支丹ら四人、転宗起請文を出す。	寛永通宝を新鋳す。
一六三七	同	14	惣検地実施、大瀬村平田の隠田露顕。	島原の乱起る。
一六三九	同	16	荒砥中町六戸焼失。	鎖国令。
一六四〇	同	17	高玉瑞竜院、米沢林泉寺と争う。	
一六四一	同	18	大旱害。	
一六四二	同	19	大旱害、餓死者出る。米価高騰により、荒砥・鮎貝に制札。穀留下山番所を大瀬村に移す。	
一六四三	同	20	この頃すでに、深山・高岡・下山に「上り紙役銀」存在す。	田畑永代売買禁止令。

一六四五	正保	2	佐野原切支丹隼人一家逮捕。この後、数年にわたり、逮捕者一八名に及ぶ。	
一六四六	同	3	現白鷹町全村の青苧生産額、銀七〇貫匁余。	
一六四七	同	5	領内青苧の販売を、西村久左衛門に託す。	
一六四八	慶安	元	田尻村と鮎貝村に草地の争論起こる。	
一六四九	同	2	鮎貝堰成る。幕命により里程を測り、一里山を設ける。	
一六五〇	同	3	開鑿地検地、青苧・漆検地。	
一六五一	同	4	白鷹山虚空蔵堂建替。	慶安事件。
一六五四	承応	3	領内青苧生産高、五三〇駄。この後、定高となる。	
一六五六	明暦	2	滝野・十王に山論。	
一六五七	同	3	新税制成る。	
一六六〇	万治	3	黒鴨・栃窪・下山・佐野原・大瀬・萩野・中山に初めて紅花納割付。	江戸大火。
一六六二	寛文	2	領内産青苧、荒砥より宮村納めとなる。	
一六六四	同	4	上杉氏、伊達・信夫・屋代を公収され、一五万石となる。	
一六六五	同	5	高岡・滝野に番所を設ける。本庄政長、鮎貝城代となる。以後世襲。小国目安出る。	
一六六六	同	6	諏訪堰に、穴堰を通す。	
一六六七	同	7	米沢一五万石総百姓、信夫目安を出す。	
一六七八	延宝	6	身売形式に、「居消し」語あらわれる。	
一六八七	貞享	4	十王村農民、切支丹類属に答書す。	
一六九〇	元禄	3	漆の実製蠟を、公営筒屋とする。	生類憐み令。
一六九一	同	4	間引きの風習を禁ず。	
一六九二	同	5	西村久左衛門、川通普請を願出る。剣先不動へ鰐口奉納。	
一六九三	同	6	荒砥・鮎貝の各城を、御役屋とする。	
一六九四	同	7	黒滝開鑿工事成る。	
一六九六	同	9	青苧の荒砥収納復活する。	

一六九八	同	11	8月15日、鮎貝八幡祭礼にて、最上相撲と当地相撲争い、死者を出す。	
一七〇二	同	15	赤穂浪士討入、上杉藩主吉良上野介の喪に服す。	
一七〇六	宝永	3	和田東潮没。	
一七〇七	同	4	五百川村農民、綱手道を菖蒲陣屋に売る。西村久左衛門、航行権を失う。	
一七四五	延享	2	荒砥一一一戸焼失。	
一七四六	同	3	再度間引きを禁ず、養育令出る。	
一七五五	宝暦	5	領内大不作、餓死者有り。	
一七五六	同	6	飢饉、荒砥・鮎貝に粥場を設く。	
一七五七	同	7	洪水数度有り（宝七の水増）。	
一七六四	同	13	執政森平右衛門殺さる。	
一七六五	明和	2	領主財政、窮迫を極む。	
一七六八	同	5	鷹山、藩主となる。	
一七七三	安永	2	七家騒動。	
一七七四	同	3	漆百万本を植える。5月、「黒鴨村不動滝荒山、金山ニ見出シ、金掘願」出る。	
一七七七	同	6	お備倉の制始まる。	
一七八二	天明	2	荒砥御役屋将、旅歌舞伎を催し、役を放たれ閉門。竹俣当綱失脚。	
一七八三	同	3	冷害、大凶作。酒・菓子・豆腐製造を禁ず。	
一七八四	同	4	荒砥大火、御役屋備蔵はじめ、二〇〇軒余焼失。	
一七八六	同	6	越後蒲原郡田辺一族、畔藤村に来往。	
一七九〇	寛政	2	5月大雨、菖蒲蔵米二、〇〇〇俵流出。	
一七九二	同	4	大貫衛足著「俳諧古集之弁」刊行。荒砥、川原預り米、五、〇〇〇俵を焼く。領内人口最低。	
一七九三	同	5	正月地震、「蔵々損、上屋等落、酒こぼれ」。	
一七九四	同	6	中山村の農民、左沢領民等と大勢にて、中山番所焼打、首謀者火刑。	
一七九六	同	8	鮎貝赤坂に東潮句碑立つ。供養連衆、衛足等四三名。	

	将軍吉宗辞職。
	「解体新書」成る。
	浅間山噴火。
	寛政異学の禁。
	ロシア使節ラスクマン根室に来航。

一七九八	寛政10	この頃から瑞竜院稲荷、養蚕神として信仰される。	
一八〇一	享和元	夏蚕飼育を禁ず、翌年旧に復す。伍什組合制度強化。	
一八〇二	同　2	莅戸善政編「かてもの」刊行。	
一八〇五	文化2	大貫元愷、頼山陽と会す。	
一八〇六	同　3	「養蚕手引」刊行。	
一八〇八	同　5	6月、荒砥郷諸村大いに雹降る。稲、青苧折れる。	
一八〇九	同　6	大貫遅日坊衛足死去。	
一八一四	同　11	深山観音堂修覆。	
一八一六	同　13	荒砥の詩人大貫元愷死去。	
一八二七	文政10	白鷹町各村養蚕収入、一万三千六百両余。	
一八二九	同　12	農具千歯抜きは、この頃から普及。	
一八三〇	天保元	石那田渡舟場で飛脚溺死、八〇両遺失。	
一八三三	同　4	10月26日大地震、「鮎貝・荒砥の蔵々損じ、むかしより無覚大地震なり。」	
一八三五	同　6	8月10日、荒砥上町より仲町まで七五軒焼ける。	
一八三七	同　8	大塩平八郎外一味の人相書を、領内各村に廻す。	大塩平八郎、大坂に乱を起こす。
一八四四	弘化元	高野長英ほか一名の人相書を、領内に廻す。深山観音堂修覆。	
一八四五	同　2	高玉瑞竜院焼失。	
一八四八	嘉永元	5月19日大嵐、杉沢・貝生・十王は大雪、作物遺作により一ヶ年無年貢。	
一八五一	同　4	深山観音堂修覆。	
一八五三	同　6	旱害。	ペリー来航。
一八六六	慶応2	4月荒砥(ママ)村、白鷹山々頂虚空蔵尊祭礼の警固について、協議する。	薩長連合成る。
一八六八	明治元	維新戦争。農兵・軍夫・物資徴発。中山に堡塁築造。	一八六七、大政奉還。
一八六九	同　2	米沢藩庁を置き、上杉茂憲知藩事に任ぜらる。	9月、会津降伏。版籍奉還。

一八七〇	同	3	雲井龍雄処刑（二十七才）。	平民、姓氏を名乗る。戸籍法、新貨条例、散髪廃刀、田畑勝手作、新暦採用。
一八七一	同	4	7月、米沢藩を廃して、米沢県とし、更に11月に置賜県と改める。	
一八七二	同	5	7月、荒砥郵便局開設。米沢に初めて人力車を輸入す。	戸長制、壬申地券、郵便、学制、徴兵令。
一八七三	同	6	9月、畔藤浦に築建設を願出る。各村に順次小学校建つ。置賜県を六大区、二八小区に分ける。最上川西各村は小四区、川東各村は小五区（いずれも第五大区）。	地租改正条令発令。
一八七五	同	8	12月、石那田村に警察所屯所設置。地租改正の土地丈量終える。	
一八七六	同	9	置賜・鶴岡の二県を山形県に合併す（県令三島通庸）。白鷹町、第九大区十二小区、十三小区となる。	全国各地に、地租改正反対一揆起こる。
一八七七	同	10	3月～8月、鮎貝・田尻酒醸造売払高五六石四斗。西南の役に当町からも従軍、戦死者あり。栗子新道のほか、徴用多数。	
一八七八	同	11	4月、荒砥大火、一一七戸焼失。山形県置賜郡を東、西、南に分ける。	
一八七九	同	12	一村毎に民選の戸長及び議会を設ける。山形県会開設。箕和田村にコレラ発生。	
一八八〇	同	13	3月、萩野中山郵便局開設。各地に夜学校誕生。山口・鮎貝、十王・馬場・滝野・萩野各村に山入会権の紛争起こる。	
一八八一	同	14	12月、宮村から浅立を経て石那田に至る荒砥新道竣工。	松方財政。
一八八二	同	15	5月、拡盛社結成、山口にて営業開始。	
一八八三	同	16	畔広新協約成る。	
一八八四	同	17	連合村を設け、戸長は官選となる。	
一八八六	同	19	8月、新潟県十日町より西方吉太郎招聘、長井紬の改良を図る。12月、下長井橋竣工。八〇銭を納税し、酒を自家醸造す。	
一八八七	同	20	菖蒲築開設。	

一八八九	明治22	連合村合併、町村制施行。	
一八九〇	同23	6月、本庄孝長屯田兵として、北海道に渡る。7月、第一回衆議院選挙実施。白鷹村に衛生組合設立される。	帝国議会召集。教育勅語発布。
一八九一	同24	4月、郡制実施。	
一八九三	同26	6月5日付、朝日風穴出穴の蚕種紙あり。7月、菖蒲築記念碑建立。9月2日十王・萩野両村民、山入会権につき騒擾事件起きる。	一八九四、日清戦争。
一八九六	同29	5月1日、黒鴨大火二三戸焼失。5月21日、荒砥大火二三三戸焼失。	
一八九七	同30	12月28日、山口拡盛社解散。この年うんか大発生、水稲凶作となる。	
一八九八	同31	稲作大豊作、百束にて三俵の収穫あり。	
一八九九	同32	4月、西置賜郡教育会発足。この年より自家製酒禁止となる。	
一九〇〇	同33	荒砥銀行開設。	
一九〇三	同36	4月、国定教科書令公布。9月、西置賜郡織物同業組合発足。	
一九〇四	同37	11月、軍用わら靴製造割当あり。この頃から、長井紬染色用板締器出廻り、板大区出現。	日露戦争始まる。
一九〇五	同38	1月、黒溝台（満州）にて郷土部隊奮戦。7月、地方染色業者中、藍玉でなく薬使用する者あり、通達出る。	
一九〇六	同39	春期の気候は順調であったが、秋冷きびしく、六分作となる。	
一九〇八	同41	1月、鮎貝に巡査部長派出所設置。6月、蚕桑村横田尻大火、三三戸焼失。	
一九〇九	同42	1月、東宮行啓記念林碑、菖蒲蒔沢に建立。	
一九一〇	同43	6月、桂信用組合白鷹村中山に設立、続いて各地に信用組合発足。9月、『置賜の紬織物』刊行。12月、山口村新地にて倹約に関する規定制定。	
一九一一	同44	2月、鮎貝村在郷軍人分会発足。7月、荒砥製糸株式会社創立。	
一九一三	大正2	8月、最上川氾濫、水位最高記録（一五尺五寸）。稲作五分。	一九一四、第一次世界大戦。
一九一九	同8	12月、鮎貝小学校にて稲こき機械講習会開催。	

一九二一	同	10	4月、郡制廃止。荒砥町弁天町道路竣工。鮎貝より文芸同人誌『鈴蘭』出る。以後各地区に同人誌さかん。	
一九二二	同	11	8月1日、浅立郵便局開設。12月11日、国鉄長井線鮎貝まで開通。	
一九二三	同	12	4月22日、長井線荒砥まで開通。『荒砥の栞』発行。	9月、関東大震災。
一九二四	同	13	4月1日、荒砥小学校貝生分校廃止さる。鮎貝各区財産を一括村に寄付することに決す。	
一九二五	同	14	東根村浅立に小作争議起る。青年訓練所に指導員を置き、軍事教練を始める。	
一九二六	昭和元		五十公野清一『農民』出版、以後農民作家として活躍。	
一九二七	同	2	4月、昭和自動車、東廻り営業開始、続いて西廻りも通る。9月25日、初の普選にて、高玉金田利兵衛県議会議員に当選。	
一九二八	同	3	荒砥、沖郷、赤湯三銀行合併して羽前銀行となる。	
一九二九	同	4	5月、睦橋竣工。	
一九三〇	同	5	春繭前年の半額、農村恐慌深まる。	
一九三一	同	6	5月6日、荒砥町大火、三二戸、六五棟焼失。	
一九三三	同	8	5月、荒砥共済病院組合発足。	満州事変起きる。
一九三四	同	9	稲作大凶作、各地に娘の身売り起る。桑園整理など始まる。	
一九三五	同	10	青年学校令公布。	
一九三七	同	12	海老名部隊出征。	日華事変起きる。
一九三九	同	14	米穀の国家統制はじまる。	
一九四〇	同	15	3月、蚕桑村横田尻大火、八四戸焼失。8月、羽前銀行、両羽銀行と合併す。	
一九四一	同	16	国民学校令公布。軍人、軍属の応召、徴用工などの増員、戦時体制本格化。	第二次世界大戦起きる。
一九四三	同	18	9月、農業団体法により農業会発足す。11月、荒砥町に青年学校独立校舎建つ。稲作旱害。	
一九四四	同	19	農村、都市の疎開人口を受け入れる。	
一九四五	同	20	荒砥町文化誕生、文化の灯をともす。	第二次世界大戦終る。

一九四六	昭和	21	4月、荒砥町立農芸学校発足。	日本国憲法公布。
一九四七	同	22	4月、新制中学校発足。4月、地方自治法による第一回の地方自治体首長・議員選挙行わる。4月25日、山口出身大滝亀代司、衆議院議員当選。詩歌誌『民族誌』発刊さる。農地開放実施。	教育基本法、学校教育法公布。新制中学校発足。
一九四八	同	23	1月、荒砥町自治体警察発足。5月7日、山形県立荒砥高等学校（定時制）開校。10月5日、第一回公選県教育委員会選挙実施。この年、各地区に農協発足。文化サークル興る。	新制高校発足。
一九四九	同	24	3月29日、荒砥町水防団結成。11月5日、鮎貝小学校深山、高岡両分校廃止。西置賜漁業組合合併発足。	
一九五〇	同	25	9月25日、白鷹廻り山形行バス営業開始。	朝鮮戦争起きる。
一九五一	同	26	6月、山形中央信用組合創業。	
一九五二	同	27	10月5日、町村公選教育委員選挙実施。	
一九五三	同	28	1月1日、荒砥町自治体警察廃止、国警編入となる。6月30日、西置賜伝染病組合設置。	テレビ放送開始。
一九五四	同	29	十王・折居農協合併。短歌集団「北土」誕生。10月1日、北部一町五ヶ村合併、白鷹町誕生。	
一九五五	同	30	12月7日、白鷹町文化サークル連絡会結成。12月21日、白鷹町国保病院開院。	第一回原水爆禁止世界大会。
一九五六	同	31	下長井橋（荒砥橋）、永久橋となる。10月、針生地区、白鷹町に合併。10月1日、教育委員公選制廃止。鮎貝自彊会誕生。	
一九五七	同	32	鷹山農協発足。	
一九五八	同	33	十王・鷹山・荒砥農協合併。	
一九五九	同	34	町章、町民歌出来る。	伊勢湾台風
一九六一	同	36	8月、蚕桑地区有線放送開始、続いて各地区に拡がる。上郷ダム漁業補償妥結。	一九六〇、新安保条約成立。
一九六三	同	38	大平橋竣工。	

一九六四	同	39	9月、町舎完成。	6月、新潟地震。10月オリンピック東京大会。
一九六五	同	40	3月、町内各農協合併、白鷹町農協発足。	
一九六六	同	41	3月26日、東根小学校浅立分校廃止。	
一九六七	同	42	8月28日、大洪水（羽越水害）発生、鮎貝・荒砥地区被害甚大。	
一九六八	同	43	3月31日、荒砥小学校下山分校廃止。	
一九七一	同	46	1月、菖蒲・高岡間の渡し船廃止。2月18日、黒滝橋渡り初め。	
一九七二	同	47	3月31日、鮎貝小学校栃窪分校廃止。	
一九七四	同	49	有線放送廃止。	